

# タイ王国及び他の東南アジア諸国の経済・産業動向、社会動向報告書

2016年9月

こんにちは。鳥取県東南アジアビューローの辻です。

ASEAN（東南アジア諸国連合）加盟国に日本・中国・韓国の3カ国を加えたASEAN+3首脳会議、さらに米露などを加えた東アジア首脳会議（EAS）が9月6日から三日間の日程でラオスのビエンチャンで開催されました。



ラオスの首都・ビエンチャンの町並み

ラオスはASEAN加盟10カ国の中で唯一の海に面していない内陸国で、人口わずか700万人弱の小さな国ですが、ルアンパバーンやワットプーの世界遺産登録を契機に観光産業が発展しており、また、AEC域内の東西を結ぶ物流リンクの拠点として存在感を増しています。

今回は、前回ご紹介したカンボジアと共に、タイプラスワンの拠点としても注目をされているラオスについてご紹介します。

## 【ラオス基本情報】

データ出所：JETRO

1. 正式国名：ラオス人民民主共和国（Lao People's Democratic Republic）
2. 人口：689万人（2014年）
3. 国土：24万平方キロメートル（日本の本州とほぼ同じ）
4. 首都：ビエンチャン
5. 気候：熱帯モンスーン気候
6. 民族：ラオ族（50%以上）を含む計49民族
7. 宗教：仏教



## ◇◆◇ラオスの経済概況と日系企業の進出状況◆◆◇

経済概況	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
実質GDP成長率（%）	7.5	8.1	8.0	7.9	8.0	7.4
1人当たりGDP （USD）	890.64	1,069.75	1,236.24	1,414.46	1,593.59	1,697.06
失業率 ※データ無し	—	—	—	—	—	—
消費者物価上昇率 （%）	0.03	6.0	7.6	4.3	6.4	5.5

（IMF 推計）

# タイ王国及び他の東南アジア諸国の経済・産業動向、社会動向報告書

2016年9月

ASEANの中で比較的経済開発が遅れたカンボジア・ラオス・ミャンマー・ベトナムの4カ国は、それぞれの頭文字を取って「CLMV」と呼ばれています。そのCLMVの中でラオスの各産業ごとのGDP構成をみると、一次産業（農牧業・林業・漁業）を二次産業（鉱業・製造業・電気水道・建設業）が上回っていますが、二次産業の中で製造業の割合だけを見ると、ラオスは他のCLMV諸国に比べると極めて低い割合しか占めておらず、「工業化」という視点でみると、ラオスはCLMVの中で最も遅れた水準にあります。製造業の中では縫製業が最大の企業数、雇用者数を有しています。

CLMVの産業構造（GDP構成、2012年）

(%)

	ラオス	カンボジア	ミャンマー	ベトナム	タイ
<b>一次産業</b>	<b>26.0</b>	<b>35.6</b>	<b>30.5</b>	<b>19.7</b>	<b>11.1</b>
農牧業	21.4	データ無し	データ無し	15.3	10.2
林業	1.6			0.6	データ無し
漁業	3.0			3.8	0.8
<b>二次産業</b>	<b>31.2</b>	<b>24.3</b>	<b>32.1</b>	<b>38.6</b>	<b>38.3</b>
鉱業	10.0	0.8	6.1	11.9	3.7
製造業	<b>10.3</b>	16.0	19.9	17.4	29.1
電気・水道	4.2	0.6	1.2	3.7	2.7
建設業	6.7	6.9	4.9	5.6	2.8
<b>三次産業</b>	<b>37.1</b>	<b>40.1</b>	<b>37.5</b>	<b>41.7</b>	<b>50.6</b>
商業	19.1	14.5	19.4	13.1	14.5
ホテル・レストラン	0.7	データ無し	データ無し	3.9	3.4
運輸・倉庫・通信	4.4	8.0	13.3	3.8	6.6
金融	3.6	7.7	0.2	5.5	5.9
不動産・ビジネスサービス	2.9	データ無し	データ無し	5.4	6.8
その他サービス	6.4	9.9	4.7	10.0	13.4
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

データ出所：ラオス・ベトナムは各国の統計局、カンボジア・ミャンマーはADB、タイはNESDB

GDP比で農牧業は21.4%、労働人口の72%が従事していて、なかでも輸出産品としては、コーヒー、とうもろこしが有名です。ラオスの農地は近隣諸国に比べて土壌が化学物質に汚染されておらず、農家も化学肥料や農薬を購入する資金力が無いため、政府が農家に対して有機栽培を奨励しています。JICAも2013年から有機農業促進プロジェクトを開始し、ラオスにおける有機農業の促進を援助しています。しかし近年、北部を中心に中国企業がバナナを中心とした契約栽培を実施しており、契約している農家は化学肥料や農薬の使用が義務付けられているため、土壌汚染を引き起こし問題となっています。

# タイ王国及び他の東南アジア諸国の経済・産業動向、社会動向報告書

2016年9月

ラオスの農産物の中でも近年成長が著しいのがコーヒーで、ラオスを代表する民間会社であり、ダオ・コーヒーのブランドでコーヒーを生産しているダオフアン社や外資企業がプランテーションを展開し、日本やタイ・欧米向けに輸出をしています。2011年から2012年にかけて日本がラオスから輸入している第1位品目でもありました（2013年以降は衣類・同付属品が第1位品目）。ダオフアン社がコーヒーを栽培しているボロベン高原は冷涼な気候なため、年間を通して野菜の栽培が可能で、コーヒーの他、キャベツ、じゃがいも、しょうが、とうもろこし、トマト、きゅうりなどの高原野菜の産地となっていて、新鮮な有機栽培の野菜として高値で取り引きをされています。このボロベン高原では2010年に日本の製薬メーカーであるツムラが現地法人「Lao Tsumura Co., Ltd」を設立し、漢方薬の材料である桂皮（シナモン）やしょうがを栽培しています。



コーヒー豆の収穫

## <外資企業の進出状況>

日系企業にとってラオスは「タイプラスワン」としての戦略的な拠点として進出をしている。海に面していないので、タイのバンコク港やレムチャバン港、ベトナムのダナン港を経由して輸出をしなければならないのが難点となっています。元々、人件費の安さからラオスに工場を建てる日系企業が増えていますが、この10年で最低賃金が3倍に上昇（2015年4月より月額90万キープ≒1万2千円）をしているため、その優位性は薄れつつあります。

## 製造業

2013年ニコンがサワンナケートのサワン・セノ経済特区に工場を建設し、タイで製造されているデジタル一眼レフカメラの製造工程の一部を担うようになりました。その他、アデランス（ウィッグ）、日本ロジテム（物流）、トヨタ紡織（自動車用シートカバー等）、光陽オリエント（精密機械部品）などが同じくサワン・セノ経済特区に、三菱マテリアル（エアコン向け温度センサー）、第一ラオ（ワイヤーハーネス製造）、ラオツール（工具）、MMCエレクトロニクス（センサー製造）、シンクアドクライス（日用雑貨製造）などがビエンチャンのビエンチャン経済特区（VITA PARK）に入居しています。

## 農林水産業

ニッシントーアが2015年よりいちごの栽培実験を開始して、今後の生産拡大（2016年は2万本の苗木を栽培）を計画中です。その他、商社の丸紅は2009年ごろからコーヒー生産者のダオフアン社からコーヒー豆を買い付け、毎年5千トン前後を日本へ輸出しています。この量は日本のコーヒー輸入国の中で10位前後の量になっています。

# タイ王国及び他の東南アジア諸国の経済・産業動向、社会動向報告書

2016年9月

## サービス業

世界文化遺産であるルアンパバーンなどをはじめとした観光資源を有し、手つかずの自然が多く残り、物価も安いラオスは欧米人旅行者に人気が高く、外国人観光客数は2003年以降急激に増加して、そのことが飲食業・ホテル業・運輸業などのそれがサービス業の拡大を後押ししています。日系企業も旅行代理店や小売業、ホテル業などの進出が見られますが、いずれも小規模であり、日系大手企業はまだ進出していません。

鳥取県東南アジアビューロー Tottori-Southeast Asia Trade and Tourism Bureau  
担当：辻 三朗 Saburo Tsuji  
Address: 1 Glas Haus Building, 12 FL., Room 1202/C, Soi Sukhumvit 25, Sukhumvit Rd.,  
Klongtoey-Nua, Wattana, Bangkok 10110  
Tel : +66-(0)-2-260-1057  
Mobile : +66-(0)-86-358-7298  
Mail : [tottori@aapth.com](mailto:tottori@aapth.com)

当拠点の運営法人（鳥取県より業務委託）

■アジア・アライアンス・パートナー・ジャパン株式会社 <http://www.aapjp.com/index.html>

タイを中心に、ベトナム・インドネシア・インド・メキシコにて主に日系中堅・中小企業様の海外進出や進出後の会計税務法務を中心とした運営支援業務を行っております。

# タイ王国及び他の東南アジア諸国の経済・産業動向、社会動向報告書

2016年9月

## ワンページタイ経済

項目	単位	2013	2014	2015	2016
GDP 成長率	前年比ベ (%)	2.80	0.9	2.8	3.4 (1~6月)
人口*	千人	68,382	67,065	67,293 (12月)	67,406 (6月)
労働者の数*	千人	39,808	38,963	39,165	38,839 (7月)
失業率**	%	0.72	0.84	0.89	1.01 (7月)
最低賃金*	バンコク	300	300	300	300
	チョンブリー	300	300	300	300
	アユタヤー	300	300	300	300
	ラヨーン	300	300	300	300
賃金：全国製造業の平均	バーツ	11,066	12,074	12,305	12,367 (7月)
インフレ率**	前年比ベ (%)	2.19	1.90	▲0.90	▲0.07 (7月)
中央銀行政策金利*	%	2.25	2.00	1.50	1.50 (8月)
普通貯金率**	%	0.68	0.59	0.56	0.47 (8月)
ローン金利(MLR) **	%	7.16	6.96	6.75	6.52 (8月)
SET 指数*	1975年：100	1,298.7	1,497.7	1,288.0	1,548.4 (8月)
バーツ/100円**	バーツ	31.53	30.77	28.31	32.36 (8月)
バーツ/米ドル**	バーツ	30.73	32.48	34.25	35.33 (8月)
円/米ドル**	円	97.6	105.84	121.0	109.5 (8月)
車販売台数 (1月からの累計)	台数	1,337,631	884,346	795,905	448,313 (7月)
BOI 認可プロジェクト	件数	2,016	1,662	2,237	960 (7月)
BOI 認可プロジェクト金額	10億バーツ	1,027.3	729.4	809.4	328.5 (7月)

\*期末、\*\*平均